

1 題材名 友達をみんなに紹介しよう

2 題材について

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の「A話すこと・聞くこと」の指導事項「ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。」を受けて取り上げたものである。

中学生になったばかりの生徒たちは、新しい環境の中でさまざまな体験を重ねている。新しい生活に慣れつつある生徒、小学校との違いに驚いて戸惑っている生徒と、個々の様子は大きく違っている。共通しているのは、多くの生徒が、新しい友人を作り、中学校生活を楽しまたいという意識を持っているということである。

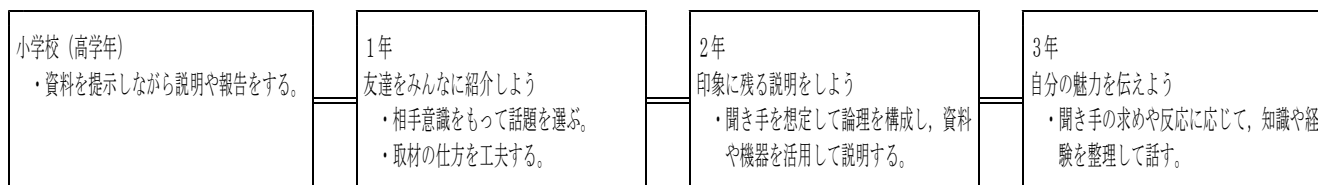
しかし、友人がほしいという思いが強すぎると、かえって自己中心的な言動が強くなり、結果として孤独感を強めることがあるかもしれない。そうならないために、他者に対する関心を高める活動や、他者に対する思いやりを持ちつつ話し合う活動を取り入れられたら良いのではないだろうかと考えた。

他者に対する関心を高めるために行うのは、友達を紹介しようという題材である。インタビューを通して、友達のPRのためのキャッチコピーを作り、それをういてスピーチをするという活動を行う。この活動で重要視したいのは、相手を尊重しながら話を聞き出すインタビューである。そのため、相手をPRするという目的を設定した。PRのためには、相手のよいところを中心に引き出さなくてはならないと考える。また、インタビューをする上で、相づちをうつ、言葉遣いに気をつける、話を合わせる等、相手が話しやすい雰囲気が作れるよう留意させたい。

キャッチコピーを作る段階では、インタビューをする者とされる者の小集団を作り、共に考える。この活動においても、相手に配慮するための方法を知り、より良い人間関係作りのためのコミュニケーションに役立てたい。

また、話し合い活動は、本校の学校教育目標である「生徒一人ひとりの人間力の向上」における、人間力と定義されているコミュニケーション能力の向上のために役立つと考える。

(2) 指導内容の系統



3 生徒の実態について(16名)

(1) 少人数集団の実態

本集団は男子7名、女子9名で構成されている。集団としての雰囲気は明るく、話し合いなどをさせるとなごやかに楽しく話している。国語科の授業だけに限らないが、意欲的な発言をしたり、どんどん発表したりする生徒も多い。

しかし、大勢の中で発言することを苦手とする生徒や、活動する際に側で支援が必要な生徒もいる。きめ細やかな活動計画や支援を行うことで、集団の雰囲気をさらに良いものとし、苦手意識を少しでも軽減していければよいと考える。

(2) 題材に関わる実態

調査人数：16名 調査実施日：平成25年4月22日

話すこと・聞くことに関する調査を実施		
1 初対面の相手と話す時、何と言って話しを始めますか。(重複回答あり)		
A あいさつから始める 9名	B 相手の名前を聞く 8名	
C 自己紹介から始める 3名		
2 相手と仲良くなるために、あなたはどんなことを聞きますか。(重複回答あり)		
A 趣味について 8名	B 好きな事物について 7名	C 名前について 5名
D 出身について 3名	E 私物について 1名	F 部活動について 1名
G 習い事について 1名		

- 3 なぜ2を聞くと、仲良くなれると思ったのですか、理由を教えてください。
- A 自分と共通している事を探したいから 7名
- B 会話の続きやすい話題を探したいから 6名
- C 性格がわかると思うから 3名

・考察

本調査から、「生徒は初対面の相手と話す時、相手との会話を続けたい、相手に失礼がないようにしたい」という気持ちを持っており、「コミュニケーションに対して前向きな姿勢であること」がわかった。

また、自由記述からは、「大人と話す場合は敬語を使い、同年代で話す場合は敬語をあえて使わないでいるという生徒」、「初対面の相手に対しては、必ず敬語を使うようにしているという生徒」の両方がいることがわかった。しかしどちらの生徒にしても「相手に対して失礼のないようにしたい」または「会話が弾むように、あえて敬語を使わない」という考えを持っている。両者とも、それぞれの経験に応じて、コミュニケーションを円滑に進めるための気遣いをしているといえる。

しかし、話題については、自分の話しやすい話題を中心にしたいという傾向がある。自分に合った相手かどうかを気にしている生徒が多く、相手に話題を合わせるという考えはないように思える。また、相づちや聞き返しなどといった相手の聞きやすい態度についての意見は全く見られなかった。

そこで、インタビューを通して相手を紹介する活動の中で、相手によって聞いてほしい話題と聞いてほしくない話題は違っていることがあるということ、相づちをうつなど、言語だけでない聞き方の工夫などにより、相手も自分も会話を楽しむことができるということに気づかせたい。さらに、インタビュー内容をキャッチコピーにまとめる過程では、インタビューをする者とされる者の双方にとって、共にアイデアを出し合う活動にしたい。この活動によって、さらに相手と自分の意見を合わせていく経験を積ませ、生徒のコミュニケーションに対する意識をさらに高めていきたいと考える。

4 題材の目標

- (1) 相手のよさを引き出せるよう、共感的にインタビューすることができる。(話すこと・聞くこと)
- (2) インタビューをもとに、相手をPRするキャッチコピーを作ることができる。(書くこと)
- (3) キャッチコピーを効果的に用いて、相手を紹介することができる。(話すこと)

5 指導計画(4時間扱い 本時は2時間目)

時間	学 習 内 容	支援及び指導上の留意点	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・2人の教師が行うインタビューのやりとりから、インタビューの方法を知る。 ・教師に対してインタビューを行い、キャッチコピーを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューのよい例と悪い例を実演することで、インタビューのポイントをとらえさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にインタビューしている。 ・ワークシートに、インタビューのポイントを記入できる
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人の小集団でインタビューし合い、キャッチコピーを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を想起させる。 ・小集団で話しやすい雰囲気を作る。 ・少人数指導を活かし、各集団の活動を支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にインタビューしている。 ・キャッチコピーをまとめることができる。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー内容とキャッチコピーをもとにして、相手を紹介する準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話す内容を文章化できない生徒を、個別に支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団で話し合い、紹介する内容をまとめている。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめたメモをもとに、相手を紹介するスピーチを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表しやすくなるよう、場の雰囲気づくりに留意する。 ・発表者のよかった点を評価し、スピーチの仕方について共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチコピーの用い方を工夫して、スピーチをすることができる。

6 本時の指導

(1) 目標

- ①相手のよさを引き出せるよう，共感的にインタビューすることができる。〈話すこと・聞くこと〉
- ②インタビューをもとに，相手をPRするキャッチコピーを作ることができる。〈書くこと〉

(2) 展開

学 習 活 動 と 内 容	時 配 形 態	支 援 及 び 指 導 上 の 留 意 点	評 価 (方 法)
<p>1 掲示やワークシートなどを用いて，本時の学習課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友達をよりよく紹介するキャッチコピーを作るためには，どんな工夫をしたら良いだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題をワークシートに記入する。 ・前時のインタビューやキャッチコピーを思い出し，ポイントを発表する。 <p>2 インタビューで聞く内容・項目について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの他の2人にインタビューする内容を具体的に考える。 <p>3 インタビューで聞き取った内容を元に，キャッチコピーを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4人のグループを作り，インタビューを行う。インタビューの時間は一人につきおよそ5分かける。 <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの後，メモの内容をグループ全員で話し合ってそれぞれのキャッチコピーを作る。 <p>4 完成したキャッチコピーを短冊に書き，掲示し，紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短冊にキャッチコピーを記入し，黒板に掲示する。 	<p>4分 一斉</p> <p>5分 個人</p> <p>35分 グループ</p> <p>6分 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を確認させるために，読み上げた後ワークシートに記入させる。 ○ 教師と生徒とで行ったインタビューの内容を参考にしやすくするため，インタビューのポイントを掲示する。同じ内容のワークシートを，お助けカードとして配布する。 ○ あらかじめ聞く項目や内容を考えさせておき，後のインタビューが円滑に進むよう図る。 ○ インタビューの時間は一人につきおよそ5分であるということをあらかじめ告げておく。 ○ 状況によっては，インタビュー開始から5分刻みに時刻を告げていく。 ○ インタビューする内容に迷う生徒に対しては，お助けカードなども参考にしよう助言する。 ○ 聞き手の反応が大切であることにも触れ，話を聞き出そうとするよう促す。 ○ キャッチコピー作りに困っているグループについて 「メモの内容だけでなく，その場でさらに質問してもかまわない」 「五七五の定型で作る」 「キーワードを並べて作る」 など，グループの様子に合わせアドバイスする。 ○ 後の発表への興味を引き立てるために，短冊には名前を書かず，誰のものであるか発表しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に人から話を聞き出そうとしているか。(観察) ○ キャッチコピーを作ることができたか。(ワークシート)